

平成20年度 成果と課題

【成果】

- 教師の意識が変わってきた。今までの指導法を見直したり、教師主導の授業を子ども主体へとしていこうという共通理解へとつながった。
- 教師が「単元をつくる」ことを考える過程で、様々な可能性の中から、何が子どもの思考の流れに合い、かつ必然性のある学習となるのか、この学習はどこに向かっていくのかを考えるようになった。
- 同じ視点で授業を参観することができた。また、学年で同じ単元を行うことによって、同じ教材でも教師や子どもの思考によって、授業の流れが変わってくることがはっきりわかった。
- 子どもたちは、今までの受け身の学習態度から、自ら人やものごとに関わろうとする主体的な姿が見られてきた。
- 子どもたちは、話し合ってよりよいものをめざすことを楽しいと感じる経験ができてきた。

【課題】 →昨年度と同様だが、さらに深めるための課題として出てきた。

- 必然性のある授業づくり
- 関わり合う、ひびき合う姿のみとり
- 話し合うという場面でのスキルやマナーの積み重ね